

宇宙基本計画工程表
(平成29年度改訂)
(抜粋)

平成29年12月12日
宇宙開発戦略本部

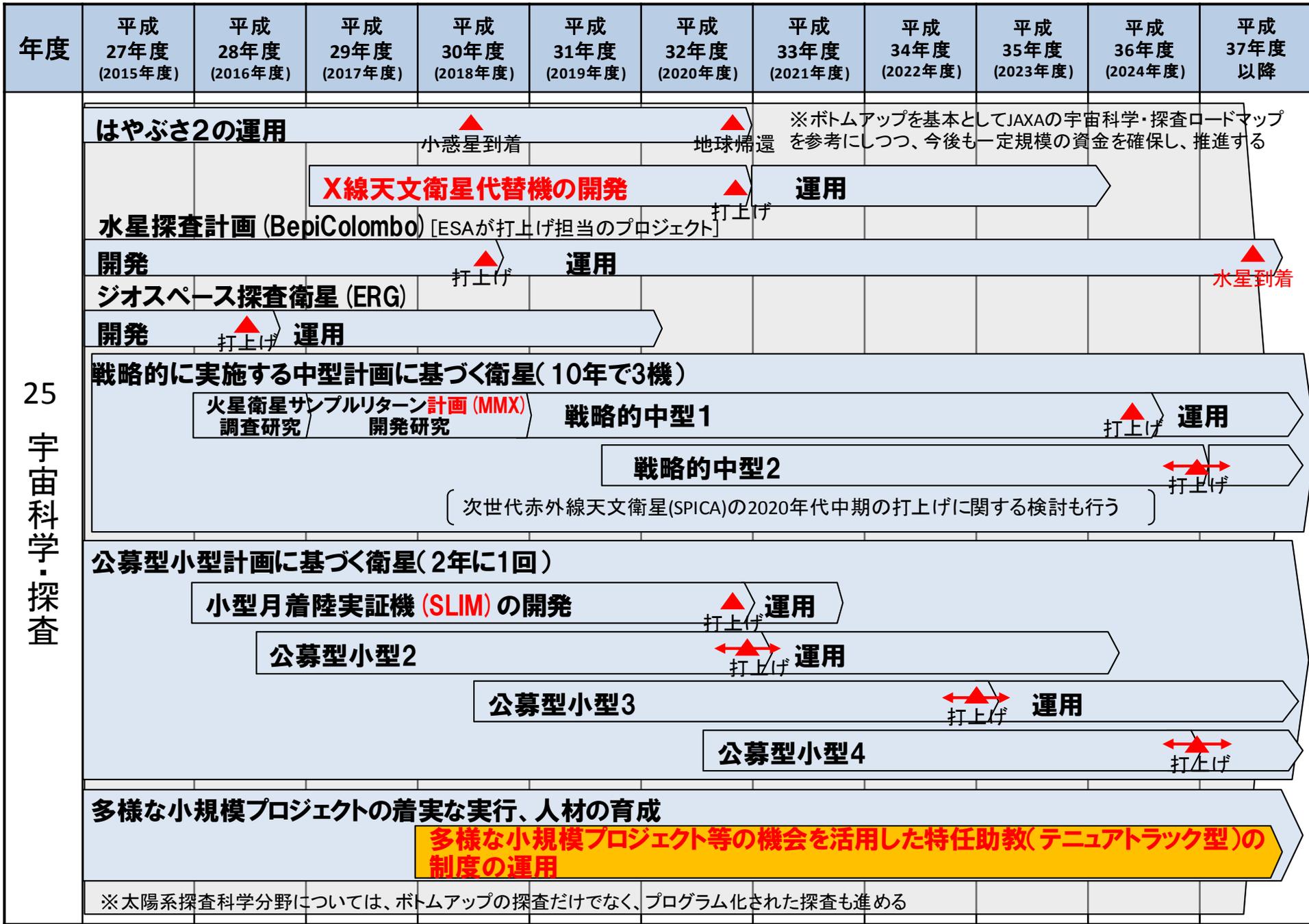
宇宙基本計画工程表 目次

番号	施策名
1	準天頂衛星システムの開発・整備・運用
2	準天頂衛星システムの利活用の促進等
3	利用ニーズの各プロジェクトへの反映
4	情報収集衛星等（光学）
5	情報収集衛星等（レーダ）
6	即応型の小型衛星等
7	先進光学・レーダ衛星
8	地球観測衛星事業に必要な制度整備等の検討
9	静止気象衛星
10	温室効果ガス観測技術衛星
11	その他リモートセンシング衛星開発・センサ技術高度化（1）
12	その他リモートセンシング衛星開発・センサ技術高度化（2）
13	技術試験衛星
14	光データ中継衛星
15	Xバンド防衛衛星通信網
16	基幹ロケットの優先的使用
17	新型基幹ロケット（H3ロケット）
18	イプシロンロケット
19	射場の在り方に関する検討
20	即応型の小型衛星等の打上げシステム
21	宇宙状況把握
22	海洋状況把握
23	早期警戒機能等
24	宇宙システム全体の機能保証強化
25	宇宙科学・探査
26	国際宇宙ステーション計画を含む有人宇宙活動
27	国際有人宇宙探査

- 28 民間事業者の新規参入を後押しする制度的枠組みの整備
- 29 新事業・新サービスを創出するための民間資金や各種支援策の活用等
- 30 部品に関する技術戦略の策定等
- 31 費用低減活動の支援及び軌道上実証機会の提供等
- 32 東京オリンピック・パラリンピックの機会を活用した先導的社会実証実験
- 33 LNG推進系関連技術
- 34 再使用型宇宙輸送システム
- 35 宇宙の潜在力を活用して地上の生活を豊かにし、活力ある未来の創造につながる取組等
- 36 宇宙基本計画に基づく施策の政府一体となった推進
- 37 JAXAと防衛省との連携
- 38 調査分析・戦略立案機能の強化
- 39 国内の人的基盤強化
- 40 国民的な理解の増進
- 41 宇宙活動法
- 42 リモートセンシングに関する法制度
- 43 測位衛星の信号への妨害対応策
- 44 調達制度のあり方の検討
- 45 宇宙空間における法の支配の実現・強化
- 46 諸外国との重層的な協力関係の構築
- 47 各種課題解決に向けた衛星等の共同開発・相乗り等
- 48 産学官の参加による国際協力の推進
- 49 アジア太平洋地域における宇宙協力の推進
- 50 宇宙システム海外展開タスクフォース
- 51 宇宙安全保障の確保に向けたその他の取組
- 52 民生分野における宇宙利用の推進に向けたその他の取組
- 53 宇宙産業及び科学技術の基盤の維持・強化に向けたその他の取組

4. (2)① ix) 宇宙科学・探査及び有人宇宙活動

25 宇宙科学・探査



25 宇宙科学・探査

成果目標

【基盤】 学術としての宇宙科学・探査について世界的に優れた成果を創出し人類の知的資産の創出に寄与するとともに、我が国の学術研究と宇宙開発利用を支える人材を育成する。

平成29年度末までの達成状況・実績

- X線天文衛星代替機について、ASTRO-Hの運用異常の教訓を適用した上で、開発に着手した。
- 戦略的中型計画1の候補である火星衛星サンプルリターン計画(MMX)の開発研究に着手した。戦略的中型計画2の候補について、平成31年度の選定へ向け、技術検討等を実施した。
- 小型月着陸実証機(SLIM)について、平成32年度のH-IIAロケットによる打上げへの変更、科学意義の向上等のため見直し検討を実施し、基本設計を進めた。
- 公募型小型計画2の候補を選定するとともに、平成34年度・同36年度の打上げを目指した公募型小型計画3・4の公募を実施した。
- 人材育成の観点から、国際プロジェクトへの参加や小型・小規模プロジェクトの機会を活用した特任助教(テニュアトラック型)の制度検討を実施した。

平成30年度以降の取組

- X線天文衛星代替機について、平成32年度の打上げを目指し引き続き開発を進める。
- 戦略的中型計画1の候補である火星衛星サンプルリターン計画(MMX)について、平成31年度開発着手・同36年度打上げを目指し、開発研究を継続する。また、戦略的中型計画2の候補ミッションの技術検討等を行い、ミッション意義・成立性等を踏まえ平成31年度に選定する。
- 公募型小型計画に関して、小型月着陸実証機(SLIM)については、平成32年度の打上げを目指し開発を進めるとともに、公募型小型計画の具体化に向けた開発研究を進める。
- 欧州宇宙機関が実施する木星氷衛星探査計画(JUICE)への参画等、小型衛星・探査機やミッション機器の開発機会を活用し、特任助教(テニュアトラック型)の制度を平成30年度に導入する。

4. (2)① ix) 宇宙科学・探査及び有人宇宙活動

年度	平成 27年度 (2015年度)	平成 28年度 (2016年度)	平成 29年度 (2017年度)	平成 30年度 (2018年度)	平成 31年度 (2019年度)	平成 32年度 (2020年度)	平成 33年度 (2021年度)	平成 34年度 (2022年度)	平成 35年度 (2023年度)	平成 36年度 (2024年度)	平成 37年度 以降
27 国際有人宇宙探査	<div style="background-color: #FFD700; padding: 10px; border: 1px solid black;"> <h2 style="margin: 0;">国際有人宇宙探査</h2> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center; margin-right: 20px;">  <p>第2回国際宇宙探査 フォーラム(ISEF2)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; background-color: #FFD700; margin-bottom: 5px;"> <p style="color: red; margin: 0;">技術検討等</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; background-color: #FFD700; margin-bottom: 10px;"> <p style="color: red; margin: 0;">技術実証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深宇宙補給技術(ランデブ・ドッキング技術等) ・有人宇宙滞在技術(環境制御技術等) ・重力天体離着陸技術(高精度航法技術等) ・重力天体表面探査技術 (表面移動技術、掘削技術、水氷分析技術等) </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ADD8E6; margin-top: 10px; width: fit-content;"> <p style="color: red; margin: 0;">国際宇宙探査の検討に向けた原則とすべき基本的な考え方を取りまとめ</p> </div> </div>										
	<div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;">  <p style="color: red; margin: 0; font-weight: bold;">連携(得られる知見の活用)</p> </div>										
	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #FFD700; width: 40%;"> <p style="color: red; margin: 0;">(参考)火星衛星サンプルリターン計画(MMX) 調査研究 開発研究</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #FFD700; width: 50%; text-align: center;"> <p style="color: red; margin: 0; font-weight: bold;">戦略的中型1</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #FFD700; width: 10%; text-align: center;"> <p style="color: red; margin: 0;">▲ 打上げ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #FFD700; width: 55%;"> <p style="color: red; margin: 0;">(参考)小型月着陸実証機(SLIM)の開発</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #FFD700; width: 40%; text-align: center;"> <p style="color: red; margin: 0;">▲ 打上げ</p> </div> </div>										
<p>※以上すべて文部科学省</p>											

27 国際有人宇宙探査

成果目標

【基盤】他国の動向も十分に勘案の上、その方策や参加の在り方について、慎重かつ総合的に検討を行う。

平成29年度末までの達成状況・実績

- 他国の動向も勘案の上、我が国としての国際宇宙探査の検討に向けた原則とすべき基本的な考え方について、取りまとめを行った。
- 第2回国際宇宙探査フォーラム(ISEF2)を平成30年3月に東京で主催し、上記考え方を踏まえ、参加各国と今後の国際宇宙探査について意見交換を行う。

平成30年度以降の取組

- 米国が構想する月近傍の有人拠点への参画や、国際協力による月への着陸探査活動の実施などを念頭に、国際プログラムの具体化が図られるよう、主体的に技術面や新たな国際協調体制等の検討を進める。
- 国際宇宙探査のプログラムの具体化に先立ち、我が国として優位性や波及効果が見込まれる技術の実証に、宇宙科学探査における無人探査と連携して取り組む。